

2019 年 7 月

公認心理師養成カリキュラム 大学・大学院 ご担当者様

公認心理師養成大学教員連絡協議会（公大協）

公認心理師の養成カリキュラムと実習についての調査へのご協力をお願い

平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

公認心理師養成大学教員連絡協議会（公大協）では、公認心理師制度の充実のために、全国の大学の養成カリキュラムと実習についての調査をしています。

2018 年に第 1 回調査を実施し、今回は第 2 回の調査となります。第 1 回の調査結果は、日本心理学会ホームページの公大協のページよりダウンロードできます。

調査結果は、公大協において集計し、統計データを公開します。回答は統計的に処理し、調査結果の公表においても個別情報には十分に配慮いたします。

質問項目

質問は 2 つの部分からなります。

第 1 部 大学学部カリキュラムについて

第 2 部 現場実習（大学院および大学学部）について

ひとつの大学・大学院で公式の回答をひとつにまとめて代表者に回答いただいても結構ですし、それぞれの担当教員が担当されている部分についてのみ回答されても結構です。

大学・大学院としての公式の回答でなくても、担当教員の個人的な意見でも結構です。

質問表

質問表は、下記 URL から Web 入力フォームを表示するか、もしくは調査票のファイルをダウンロードしてご覧ください。

想定される回答時間

第 1 部 5 分程度

第 2 部 20～30 分程度

回答方法

2 つの回答方法があります。

1) Web 入力（Google フォーム）

2) または、調査票のファイル（Word または PDF）をダウンロードし、所定の事項を記入の上、メール添付、郵便（同封の返信用封筒）・FAX にてご返送ください。

Web 入力フォーム・調査票ダウンロード URL



https://psych.or.jp/2019survey_psychedu/

回答期限

2019 年 8 月 15 日 (水)

回答先・問い合わせ先

公認心理師養成大学教員連絡協議会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-23-13 田村ビル内

公益社団法人日本心理学会事務局内

TEL : 03-3814-3953 FAX : 03-3814-3954 メール : jpa@psych.or.jp

学期末および夏休みの時期に大変お手数をおかけし誠に恐縮ですが，調査の趣旨と重要性をご理解いただき，ご協力くださいますようお願い申し上げます。

第1部 大学学部カリキュラムについて

現在、公認心理師カリキュラムを実施されている大学にお尋ねします。教育の質を低下させないために様々な試みをなさっておられると存じます。現状と工夫についてお尋ねします。

問1 従来、独立していた科目を「・」で繋げた科目（いわゆるナカグロ科目）についてどのように実施されていますか？

次のような方法が考えられます。各ナカグロ科目について、A,B,C,D のいずれの方法で対応しているかについて表にご記入ください。

A そのままナカグロ科目1科目として実施している

ナカグロ科目1科目としてではなく、それぞれの科目の従来の単位数を確保するために、ナカグロ科目を複数の科目として小分けして実施している場合、その実施の仕方について教えてください。

B ナカグロで繋がれた科目をそれぞれ独立させて、実施している（例えば、知覚・認知心理学Ⅰ、知覚・認知心理学Ⅱ、学習・言語心理学Ⅰ、学習・言語心理学Ⅱなど）

C 公認心理師カリキュラムの科目は科目としてナカグロ科目は1科目としてそのまま実施し、従来の科目は従来通り実施している（例えば、社会・集団、家族心理学、社会心理学、集団心理学、家族心理学というように）

D その他の方法

科目名		単位数	対応方法			
1	知覚・認知心理学		A	B	C	D()
2	学習・言語心理学		A	B	C	D()
3	感情・人格心理学		A	B	C	D()
4	神経・生理心理学		A	B	C	D()
5	社会・集団・家族心理学		A	B	C	D()
6	健康・医療心理学		A	B	C	D()
7	教育・学校心理学		A	B	C	D()
8	司法・犯罪心理学		A	B	C	D()
9	産業・組織心理学		A	B	C	D()

問2 卒業論文は公認心理師カリキュラムには設定されていませんが、貴学では従来通り、卒業論文（卒業研究）を必修として求めていますか？

☐ 従来通り。卒業論文（卒業研究）は求めている。

☐ もともと、卒業論文は求めている。

☐ 公認心理師カリキュラム導入以降、卒業論文（卒業研究）はカリキュラムから外した。

☐ 現在は卒業論文を求めているが、将来はカリキュラムから外す予定である。

公認心理師カリキュラムと卒業論文について、お考えを自由にお書きください。

()

問3 公認心理師カリキュラムの実施に当たって、新たに教員を確保しましたか？

☐ はい

☐ いいえ

「はい」の場合、それは常勤ですか、非常勤ですか？ 科目名を記入してください。

常勤で採用した科目名 ()

非常勤で採用した科目名 ()

問4 公認心理師カリキュラムの実施以降、貴学での心理学教育の質がどう変化すると予想されるかということについて質問します。

今後、心理学教育の質は

☐ 変わらない

☐ 向上する

☐ 低下する

問5 貴学では、コンソーシアム（複数の大学が協力する制度）や他大学との単位互換などによって公認心理師カリキュラムを整備することを必要としていますか。

☐ はい

☐ いいえ

コンソーシアム制度や他大学との単位互換について、お考えを自由にお書きください。

()

問6 公認心理師カリキュラムと心理学の学部教育の現状と今後について、お考えを自由にお書きください。

()

以上で第1部「大学学部カリキュラムについて」の質問は終了です。

第2部 現場実習（大学院および大学学部）について

1. 大学院における心理実践実習（学外実習）についてお伺いします。

- ① 現在の修士1年と修士2年の大学院生の人数をそれぞれ教えてください。そのうち、公認心理師対応カリキュラムに該当している大学院生の人数を教えてください。

修士1年の人数をお知らせください。

（ ）名

うち公認心理師対応の人数をお知らせください。

（ ）名

修士2年の人数をお知らせください。

（ ）名

うち公認心理師対応の人数をお知らせください

（ ）名

② 大学院生が行っている実習先として、あてはまるものに○をつけてください。

小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
適応指導教室	児童相談所	市町村教育センター	保育所
総合病院	精神科病院	精神科・心療内科系 クリニック	内科・小児科系 クリニック
その他病院、診療所	精神保健 福祉センター	認定こども園	乳児院
児童養護施設	児童発達 支援センター	障害児入所施設	児童自立支援施設
児童家庭 支援センター	発達障害者 支援センター	養護老人ホーム、 特別養護老人ホーム	老人介護 支援センター
地域包括 支援センター	保健所	市町村保健センター	社会福祉協議会
知的障害者 更生相談所	地域障害者 職業センター	障害者就業・ 生活支援センター	婦人相談所又は 婦人保護施設
EAP	企業の精神保健 関連部署	刑務所	拘置所
少年院	少年鑑別所	保護観察所	ホームレス 自立支援事業所

そのほか、上記以外の施設名があれば、記入してください

- ③ 大学院生が行っている実習先の数と実習に行っている大学院生の人数を教えてください。また、予定実習時間、主な実習内容を教えてください。実習時間や内容にばらつきがある場合には、多くの大学院生が該当する時間や内容について教えてください。

	保健医療分野	福祉分野	教育分野	司法・犯罪分野	産業・労働分野
施設数	施設	施設	施設	施設	施設
大学院生	名	名	名	名	名
予定実習時間	() 時間 × 全 () 回 うち担当 ケース時間 () 時間	() 時間 × 全 () 回 うち担当 ケース時間 () 時間	() 時間 × 全 () 回 うち担当 ケース時間 () 時間	() 時間 × 全 () 回 うち担当 ケース時間 () 時間	() 時間 × 全 () 回 うち担当 ケース時間 () 時間
主な実習内容 (実施するものに○)	面接(支援)実施・ 検査実施・ 面接(支援)陪席・ 検査陪席・ カンファレンス参加	面接(支援)実施・ 検査実施・ 面接(支援)陪席・ 検査陪席・ カンファレンス参加	面接(支援)実施・ 検査実施・ 面接(支援)陪席・ 検査陪席・ カンファレンス参加	面接(支援)実施・ 検査実施・ 面接(支援)陪席・ 検査陪席・ カンファレンス参加	面接(支援)実施・ 検査実施・ 面接(支援)陪席・ 検査陪席・ カンファレンス参加
上記以外の実習内容 (自由記述)					
ケースを担当する場合の実習内容 (自由記述)					

- ④ 実習記録ノートに含まれている項目として用いられているものに○をつけてください。また、以下に挙げられていない項目や、そのほか必要と思われる項目について記載してください。

実習施設・ 機関の概要	実習計画書	実習生 (大学院生) プロフィール	実習生 (大学院生) 事前訪問記録	実習出席表
実習日誌	実習の ふりかえり	記録用紙	誓約書	緊急時連絡先

そのほか、上記以外の項目や、必要と思われる項目について記入してください

- ⑤ 実習時間数の管理は誰が行っていますか。あてはまるものの()に○をつけてください。複数の方が管理されている場合には、複数○をつけてください。

() 実習生 (大学院生)

() 大学等の実習担当教員

() 実習先の実習指導者

() その他()

- ⑥ 大学等の実習担当教員が実習先にて行う巡回指導の頻度や1回あたりの実施時間について教えてください。

心理実践実習（学外実習）（ ）回に1回程度の頻度で、

1回 () 時間程度実施

- ⑦ 上記巡回指導の内容について、あてはまるものの（ ）に○をつけてください。
複数の方法を用いられている場合には、複数○をつけてください。

() 実習先での実習生（大学院生）指導

() 実習先での実習の様子を観察

() 実習指導者との面談

() その他()

- ⑧ 実習内容については、どのように依頼されていますか。あてはまるものの（ ）
に○をつけてください。

() 実習内容について、細かく依頼している

() 陪席や見学など、実習方法の方針についてのみ、依頼している

() 巡回指導の際などに内容を確認し、場合に依じて依頼している

() 実習先に任せて、特に依頼はしていない

⑨ 実習生（大学院生）の実習先での評価について、あてはまるものの（ ）に○をつけてください。複数の方法を用いられている場合には、複数○をつけてください。

1) 評価者について

() 実習生（大学院生）

() 大学等の実習担当教員

() 実習先の実習指導者

() その他 ()

2) 評価の観点

要支援者等に関する知識の修得	要支援者等に関する技能の修得	要支援者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成に関する知識の習得	要支援者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成に関する技能の習得
要支援者へのチームアプローチに関する知識の習得	要支援者へのチームアプローチに関する技能の習得	多職種連携及び地域連携に関する知識の習得	多職種連携及び地域連携に関する技能の習得
公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解	実習に対する意欲	実習機関でのマナー、遅刻・欠席など態度	実習内容の振り返り
アセスメントの進め方に関する技能の習得	ケースフォーミュレーションと支援計画の立案に関する技能の習得	アウトカムデータの測定と評価に関する技能の習得	ケースフォーミュレーションの共有に関する技能の習得
治療や変化のための動機づけに関する技能の習得	セッションの構造化に関する技能の習得	アジェンダ設定に関する技能の習得	セッションの振り返りに関する技能の習得
ホームワークの設定に関する技能の習得	セルフモニタリングの活用に関する技能の習得	誘導による発見に関する技能の習得	段階的目標設定と活動スケジュールに関する技能の習得
問題解決テクニックに関する技能の習得	行動実験に関する技能の習得	尺度の活用に関する技能の習得	再発予防に関する技能の習得

--

- () 各実習の評価を点数化し、平均点などを実習科目の評価としている
- () 各実習の評価を参考に、教員間で協議して評価をしている
- () 総合的なレポートや面接など、別途課題を課して評価をしている
- () 学期の当該時期に実施した実習の評価を用いている
- () その他の方法で評価をしている ()

- () 設けている ()
- () 準備中・検討中である ()
- () 特に検討していない

⑫ 実習先で知れた個人情報に関連する資料の管理方法について、あてはまるものの（ ）に○をつけてください。

() 実習先内のみで取り扱う

() 大学等においても取り扱うことが認められている

() 特に規程はない

⑬ 上記の管理方法や個人情報漏洩時の対応に関する実習先との契約について、あてはまるものの（ ）に○をつけてください。

() 大学と実習先とで契約書を取り交わしている

() 大学と実習先とで口頭で確認している

() 特に契約していない

⑭ 予防接種等の感染症対策をどこまで実習生（大学院生）に求めているか、あてはまるものの（ ）に○をつけてください。

1) 対象となる分野

() すべての分野において予防接種等の感染症対策を求めている

() 保健医療分野のみ、求めている

() 実習先の指示によって、求めている

() 特に求めていない

2) 感染症対策について管理する人

() 実習生 (大学院生)

() 大学 (実習担当教員)

() 大学 (事務)

() 特に管理していない

- ⑮ 実習先での体験による実習生 (大学院生) の情動的反応に対するケアは行われていますか (たとえば、がん領域における患者の喪失体験など)。あてはまるものの () に○をつけてください。

() 大学にて実施している

() 実習先に任せている

() 実習生 (大学院生) 自身に任せている

() 特に検討していない

⑩ 実習生（大学院生）の実習の適格基準について、何か基準はありますか。あてはまるものの（ ）に○をつけてください。また、何か用いられている基準があれば、教えてください。

（ ） OSCE（客観的臨床能力試験）などを用いて判断している

（ ） 実習担当教員や実習指導者の協議で決めている

（ ） 特に基準はない

そのほか、基準があれば、教えてください。

--

⑪ 実習生（大学院生）の実習の中止基準について、何か基準はありますか。あてはまるものの（ ）に○をつけてください。また、何か用いられている基準があれば、教えてください。

（ ） 明確な基準を設定して判断している

（ ） 実習担当教員や実習指導者の協議でその都度決めている

（ ） 特に基準はない

そのほか、基準があれば、教えてください。

--

- ⑱ そのほか、心理実践実習（学外実習）について困っていること、問題として感じていることとして、あてはまるものの（ ）に○をつけてください。複数の問題等がある場合には、複数○をつけてください。

（ ） 3 分野以上の実習先の確保が難しい

（ ） 実習先の実習指導者の確保が難しい

（ ） 大学等の実習担当教員を採用することが難しい

（ ） 大学等の実習担当教員の負担が大きい

（ ） 5 回に 1 回程度の巡回指導や事前指導、事後指導などの実施が難しい

（ ） 担当ケースに関する実習時間として、学外施設での基準である 90 時間以上を確保することが難しい

（ ） その他

（ ） その他

2. 保健医療分野における心理実践実習(学外実習)についてお伺いします。

- ① 事前指導の内容について、扱われているもの（扱う予定のもの）に○をつけてください。また、以下に挙げられていない項目や、その他必要と思われる項目について記載してください。

精神保健福祉法 など関連法規	医療保健制度	チーム医療 多職種連携	患者との 関わりに関する 知識と技能	患者の家族との 関わりに関する 知識と技能
身体疾患（心身 症を含む）に 関する知識	臨床心理・ 神経心理検査に 関する知識	薬物療法に 関する知識	アウトリーチに 関する 知識と技能	集団精神療法 などに関する 知識と技能
精神疾患に 関する知識	公衆衛生に 関する知識	院内感染対策 などの医療安全 に関する知識		

そのほか、上記以外の項目や、必要と思われる項目について記入してください。

--

② 保健医療分野における実習の内容として重要であると考えている項目すべてに○をつけてください。

- () 患者と関わる経験
- () 患者の家族と関わる経験
- () 他職種と関わる経験
- () 患者を対象としたカウンセリングの陪席などの経験
- () 患者の家族を対象としたカウンセリングの陪席などの経験
- () コンサルテーションへの参加、陪席などの経験
- () カンファレンスへの参加、陪席などの経験
- () 公認心理師などによる公衆衛生活動（研修・講和などを含む）への参加、陪席などの経験
- () 臨床心理・神経心理検査などの実施の陪席、協働などの経験
- () アウトリーチなどの実施、協働などの経験
- () 集団精神療法などの実施の陪席、協働などの経験
- () 外部機関との連携の仕方に関する理解
- () その他_____
- () その他_____

- ③ 事後指導の内容について、扱われているもの（扱う予定のもの）に○をつけてください。また、以下に挙げられていない項目や、その他必要と思われる項目について記載してください。

患者との関わりの経験の 振り返り	患者の家族との関わりの 経験の振り返り	他職種との関わりの 経験の振り返り
コンサルテーションの 経験の振り返り	カンファレンスの 経験の振り返り	公衆衛生活動の 経験の振り返り
臨床心理・神経心理検査の 経験の振り返り	アウトリーチの 経験の振り返り	集団精神療法の 経験の振り返り
経験を通して得た 精神疾患などに関する 知識や技能	経験を通して得た 公認心理師としての 保健医療分野での責務	保健医療分野で働くことに 対する動機づけの変化や 就職希望の有無

そのほか、上記以外の項目や、必要と思われる項目について記入してください。

--

3. 福祉分野における心理実践実習(学外実習)についてお伺いします。

- ① 事前指導の内容について、扱われているもの（扱う予定のもの）に○をつけてください。また、以下に挙げられていない項目や、その他必要と思われる項目について記載してください。

社会福祉制度や 関連法規の理解	地域における 福祉施設の名称と 役割の理解	施設の利用者との 関わり方に 関する知識と技能	施設職員との 関わり方に 関する知識と技能
利用者の家族等との 関わり方に 関する知識と技能	心理検査・ 知能検査に関する 知識と技能	他機関連携に 関する知識と技能	アウトリーチに 関する知識と技能
ソーシャルワーク など福祉職の役割に 関する知識	三障害（身体・知的・ 精神）に関する知識	貧困などの 社会的問題に 関する知識	虐待への支援に 関する知識と技能
高齢者支援に 関する知識と技能	就労支援に 関する知識と技能		

そのほか、上記以外の項目や、必要と思われる項目について記入してください

② 福祉分野における実習の内容として重要であると考えている項目すべてに○をつけてください。

- () 施設の利用者に関わる経験
- () 施設職員に関わる経験
- () 利用者家族に関わる経験
- () 施設の利用者を対象としたカウンセリングの陪席などの経験
- () 施設の職員を対象としたカウンセリングの陪席などの経験
- () 利用者の家族を対象としたカウンセリングの陪席などの経験
- () コンサルテーションへの参加、陪席などの経験
- () カンファレンスへの参加、陪席などの経験
- () 公認心理師などによる研修・講和への参加、陪席などの経験
- () 心理検査、知能検査、質問紙調査などの実施の陪席、協働などの経験
- () ソーシャルワークなどの実施の陪席、協働などの経験
- () 就労支援プログラムなどの実施の陪席、協働などの経験
- () 虐待への支援に関するプログラムなどの実施の陪席、協働などの経験
- () 高齢者支援に関するプログラムなどの実施の陪席、協働などの経験
- () 貧困などの社会的困窮者への支援に関するプログラムなどの実施の陪席、協働などの経験
- () 他機関との連携の仕方に関する理解
- () その他_____
- () その他_____

- ③ 事後指導の内容について、扱われているもの（扱う予定のもの）に○をつけてください。また、以下に挙げられていない項目や、その他必要と思われる項目について記載してください。

施設利用者との直接的な 関わりの経験の振り返り	施設職員との直接的な 関わりの経験の振り返り	施設利用者の家族との 直接的な関わりの 経験の振り返り
施設利用者との間接的な 関わり（見学など）の 経験の振り返り	施設職員との間接的な 関わり（見学など）の 経験の振り返り	施設利用者の家族との 間接的な関わり （見学など）の 経験の振り返り
経験を通して得た 心理検査などの知識と技能	経験を通して得た 予防的対応に関する 知識や技能	経験を通して得た 社会的困窮者への 支援に関する知識や技能
経験を通して得た ソーシャルワークなどに 関する知識や技能	経験を通して得た 三障害（身体・知的・精神） に関する知識や技能	福祉分野で働くことに 対する動機づけの変化や 就職希望の有無

そのほか、上記以外の項目や、必要と思われる項目について記入してください

4. 教育分野における心理実践実習(学外実習)についてお伺いします。

- ① 事前指導の内容について、扱われているもの（扱う予定のもの）に○をつけてください。また、以下に挙げられていない項目や、その他必要と思われる項目について記載してください。

教育基本法など法律	校務分掌など 学校の制度	チーム学校に 関する知識	児童生徒との 関わり方に関する 知識と技能
教員との関わり方に 関する知識と技能	保護者などとの 関わり方に 関する知識と技能	発達障害などに 関する知識	精神疾患に 関する知識
学級集団のアセス メントに関する 知識と技能	学校不適應の兆候に 関する知識	いじめなど 危機対応、緊急支援 に関する知識	教育相談（不登校な ど）に関する知識
生徒指導 (非行・怠学など) に関する知識	進路指導（キャリア 教育・自己理解など） に関する知識	心理検査・知能検査 などに関する 知識と技能	予防的・開発的教育 援助に関する 知識と技能

そのほか、上記以外の項目や、必要と思われる項目について記入してください

② 教育分野における実習の内容として重要であると考えている項目すべてに○をつけてください。

- () 児童生徒と関わる経験
- () 教職員と関わる経験
- () 保護者と関わる経験
- () 児童生徒を対象としたカウンセリングの陪席などの経験
- () 保護者を対象としたカウンセリングの陪席などの経験
- () 教職員を対象としたカウンセリングの陪席などの経験
- () コンサルテーションへの参加、陪席などの経験
- () カンファレンスへの参加、陪席などの経験
- () 公認心理師などによる研修・講和への参加、陪席などの経験
- () 心理検査、知能検査、質問紙調査などの実施の陪席、協働などの経験
- () 予防的対応などの実施の陪席、協働などの経験
- () 危機対応、危機管理、緊急支援などの実施の陪席、協働などの経験
- () チーム学校の築き方、学外機関との連携の仕方に関する理解
- () その他_____
- () その他_____

- ③ 事後指導の内容について、扱われているもの（扱う予定のもの）に○をつけてください。また、以下に挙げられていない項目や、その他必要と思われる項目について記載してください。

児童生徒との直接的な 関わりの経験の振り返り	教員との直接的な 関わりの経験の振り返り	保護者との直接的な 関わりの経験の振り返り
児童生徒との間接的な 関わり（見学など）の経験の 振り返り	教員との間接的な 関わり（見学など）の経験の 振り返り	保護者との間接的な 関わり（見学など）の経験の 振り返り
経験を通して得た 教育相談などに関する 知識や技能	経験を通して得た 生徒指導などに関する 知識や技能	経験を通して得た 進路指導などに関する 知識や技能
経験を通して得た 発達障害などに関する 知識や技能	経験を通して得た チーム学校に関する 知識や技能	経験を通して得た 心理検査・知能検査などに 関する知識や技能
経験を通して得た予防的・ 開発的教育援助に関する 知識や技能	経験を通して得た危機対応、 危機管理などに関する 知識や技能	教育分野で働くことに 対する動機づけの変化や 就職希望の有無

そのほか、上記以外の項目や、必要と思われる項目について記入してください

5. 司法・犯罪分野における心理実践実習(学外実習)についてお伺いします。

①事前指導の内容について、扱われているもの（扱う予定のもの）に○をつけてください。
また、以下に挙げられていない項目や、その他必要と思われる項目について記載してください。

各施設に関連する 法律	各施設に関連する 制度	受刑者などの要支援 者との関わり方に 関する知識と技能	施設職員との 関わり方に 関する知識と技能
施設関係者（外部 有識者など）との 関わり方に関する 知識と技能	非行・犯罪の 特徴に関する知識	鑑別や分類に必要と なる心理検査などの 知識と技能	改善指導などの 矯正指導に必要 となる知識と技能
生活指導などの 矯正教育に必要 となる知識と技能	更生保護に必要 となる知識と技能	被害者支援に関する 法律（犯罪被害者等 基本法など）	被害者支援に関する 制度（警察による 犯罪被害者支援 など）
被害者支援に関する 知識と技能			

そのほか、上記以外の項目や、必要と思われる項目について記入してください

② 司法・犯罪分野における実習の内容として重要であると考えている項目すべてに○をつけてください。

- () 要支援者（受刑者など）を直接目にする経験
- () 要支援者（受刑者など）と直接関わる経験
- () 施設などを見学する経験
- () 要支援者（受刑者など）を対象としたカウンセリングの陪席などの経験
- () 要支援者（受刑者など）を対象としたカウンセリングの模擬体験
- () 要支援者（受刑者など）を対象とした集団療法の陪席などの経験
- () 要支援者（受刑者など）を対象とした集団療法の模擬体験
- () 被害者を対象としたカウンセリングの陪席などの経験
- () コンサルテーションへの参加、陪席などの経験
- () カンファレンスへの参加、陪席などの経験
- () 公認心理師などによる研修・講和への参加、陪席などの経験
- () 心理検査、知能検査、質問紙調査などの実施の陪席、協働などの経験
- () その他_____
- () その他_____

③ 司法・犯罪分野における実習内容について現在の状況に、あてはまるものの（ ）に○をつけてください。

（ ） 要支援者を目にする機会はない

（ ） 要支援者と直接的な接触はないが目にする機会がある

（ ） 要支援者と直接的な接触がある

④ 司法・犯罪分野における実習内容として今後は（あるいは今後も）必要だと考えている内容について、あてはまるものの（ ）に○をつけてください。

（ ） 要支援者を目にする機会は必須ではなく施設の見学のみで十分である

（ ） 要支援者と直接的な接触はなくとも目にする機会が必要である

（ ） 要支援者と直接的な接触が必要である

- ⑤ 事後指導の内容について、扱われているもの（扱う予定のもの）に○をつけてください。また、以下に挙げられていない項目や、その他必要と思われる項目について記載してください。

受刑者等の要支援者との 直接的な関わりの 経験の振り返り	施設職員との直接的な 関わりの経験の振り返り	施設関係者（外部有識者 など）との直接的な関わりの 経験の振り返り
受刑者などの要支援者との 間接的な関わり（見学など） の経験の振り返り	施設職員との 間接的な関わり（見学など） の経験の振り返り	施設関係者 （外部有識者など）との 間接的な関わり（見学など） の経験の振り返り
経験を通して得た 心理検査などの知識と技能	経験を通して得た 改善指導などの矯正指導に 関する知識や技能	経験を通して得た 生活指導などの矯正教育に 関する知識や技能
経験を通して得た 更生保護に関する 知識や技能	経験を通して得た 被害者支援に関する 知識や技能	司法・犯罪分野で 働くことに対する 動機づけの変化や 就職希望の有無

そのほか、上記以外の項目や、必要と思われる項目について記入してください

6. 産業・労働分野における心理実践実習(学外実習)についてお伺いします。

- ① 事前指導の内容について、扱われているもの（扱う予定のもの）に○をつけてください。また、以下に挙げられていない項目や、その他必要と思われる項目について記載してください。

労働三法など法律	人事制度・賃金制度・評価制度など会社の制度	就業規則への理解	人事担当者との連携
ハラスメントに関する知識	障害者の就労支援に関する知識	守秘義務と安全配慮義務のバランス	人事労災や産業保健スタッフとの関わり方に関する知識と技能
休職・復職・再就職時に関する知識と技能	長時間労働規制の制度や過労死に関する知識	ダイバーシティ、インクルージョンに関する知識	ストレスチェック制度に関する知識と技能
キャリアコンサルティングに関する知識と技能	ポジティブメンタルヘルスに関する知識	精神疾患に関する知識	ラインケア（管理監督者の役割）に関する知識
セルフケア（ストレスマネジメント、生活習慣改善）に関する知識	ワークライフバランス、ワークエンゲイジメントに関する知識		

そのほか、上記以外の項目や、必要と思われる項目について記入してください

② 産業・労働分野における実習の内容として重要であると考えている項目すべてに○をつけてください。

- () メンタルヘルス不調者と関わる経験
- () メンタルヘルス不調者の上司や同僚などに関わる経験
- () メンタルヘルス不調者を対象としたカウンセリングの陪席などの経験
- () メンタルヘルス不調者の上司や同僚を対象としたカウンセリングの陪席などの経験
- () メンタルヘルス不調者の家族などを対象としたカウンセリングの陪席などの経験
- () メンタルヘルス担当者（人事、労務など）に関わる経験
- () 産業保健スタッフ（産業医、保健師、看護師など）に関わる経験
- () キャリアコンサルティングへの参加、陪席などの経験
- () カンファレンスへの参加、陪席などの経験
- () ラインケアに関する研修への参加、陪席などの経験
- () セルフケアに関する研修への参加、陪席などの経験
- () ストレスチェックなどの実施の陪席、協働などの経験
- () 社外機関との連携の仕方に関する理解
- () その他_____
- () その他_____

③ 事後指導の内容について、扱われているもの(扱う予定のもの)に○をつけてください。
また、以下に挙げられていない項目や、その他必要と思われる項目について記載してください。

メンタルヘルス不調者との 直接的な関わりの 経験の振り返り	メンタルヘルス不調者の 上司や同僚との 直接的な関わりの 経験の振り返り	メンタルヘルス不調者の 家族などとの 直接的な関わりの 経験の振り返り
メンタルヘルス不調者との 間接的な関わりの 経験の振り返り	メンタルヘルス不調者の 上司や同僚との 間接的な関わりの 経験の振り返り	メンタルヘルス不調者の 家族などとの 間接的な関わりの 経験の振り返り
経験を通して得た ストレスチェック制度に 関する知識や技能	経験を通して得た キャリアコンサルティング に関する知識や技能	経験を通して得た 休職・復職・再就職時に 関する知識や技能
経験を通して得た ワークライフバランス などに関する知識や技能	経験を通して得た 就労支援などに関する 知識や技能	経験を通して得た メンタルヘルス担当者や 産業保健スタッフとの 連携に関する知識や技能
経験を通して得た ダイバーシティ、 インクルージョンに 関する知識	経験を通して得た 社外連携に関する 知識や技能	経験を通して得た ポジティブメンタルヘルス に関する知識や技能
経験を通して得た セルフケアに関する 知識や技能	経験を通して得た ラインケアに関する 知識や技能	産業・労働分野で 働くことに対する 動機づけの変化や 就職希望の有無

そのほか、上記以外の項目や、必要と思われる項目について記入してください

7. 学部における心理実習(学外実習)についてお伺いします。

- ① 現在の3年生で、公認心理師カリキュラムの対象となっている学部生の人数を教えてください。そのうち、心理実習に行く予定の学部生の人数を教えてください。

学部3年（ ）名、うち心理実習実施予定（ ）名

- ② 心理実習に行く学部生は、何らかの方法で、人数の制限をかけていますか。あてはまるものの（ ）に○をつけてください。また、人数制限をかけている場合には、その方法について教えてください。

（ ） 人数制限をかけている

（ ） 人数制限をかけていない

人数制限をかけている場合の方法について教えてください。

- ③ 学部における心理実習の実習先として、検討している分野の（ ）に○をつけてください。複数の分野にて実施予定である場合には、複数○をつけてください。

（ ） 保健医療分野

（ ） 福祉分野

（ ） 教育分野

（ ） 司法・犯罪分野

（ ） 産業・労働分野

④ 学部の心理実習で予定されている実習内容として、検討している内容の（ ）に○をつけてください。複数の内容にて実施予定である場合には、複数○をつけてください。

() 公認心理師としての職責の理解

() 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

() 問題解決能力と生涯学習の重要性

() 心理状態の観察及び結果の分析

() 多職種連携及び地域連携

() 要支援者への個別の心理的支援

() 要支援者への集団での心理的支援

() 要支援者へのチームアプローチ

そのほか、上記以外の内容や、必要と思われる内容について記入してください

--

⑤ 実習内容については、どのように依頼される予定でしょうか。あてはまるものの()
に○をつけてください。

() 実習内容について、細かく依頼する予定

() 陪席や見学など、実習方法の方針についてのみ、依頼する予定

() 巡回指導の際などに内容を確認し、場合に応じて依頼する予定

() 実習先に任せて、特に依頼はしない予定

⑥ 実習生（学部生）の実習先での評価者について、予定しているものの()に○を
つけてください。複数の方法を用いる予定である場合には、複数○をつけてくださ
い。

() 実習生（学部生）

() 大学等の実習担当教員

() 実習先の実習指導者

() その他()

⑦ その他、心理実習（学外実習）について現時点で困っていること、問題として感じていることとして、あてはまるものの（ ）に○をつけてください。複数の問題などがある場合には、複数○をつけてください。

- () 必須である医療機関での実習先の確保が難しい
- () 複数分野の実習先の確保が難しい
- () 実習先の実習指導者の確保が難しい
- () 大学などの実習担当教員を採用することが難しい
- () 大学などの実習担当教員の負担が大きい
- () 80 時間以上の実習時間の確保が難しい
- () その他 ()
- () その他 ()

以上で「第2部 現場実習（大学院および大学学部）について」の質問は終了です。
協力いただきまして誠にありがとうございました。

誠に勝手ながら、アンケートは **2019 年 8 月 15 日までに** 回答ください。

2 つの回答方法があります。

1) Web 入力 (Google フォーム)

2) または、調査票のファイル (Word または PDF) をダウンロードし、所定の事項を記入の上、メール添付、郵便 (同封の返信用封筒)・FAX にてご返送ください。

Web 入力フォーム・調査票ダウンロード URL :



https://psych.or.jp/2019survey_psychedu/

回答先・問い合わせ先

公認心理師養成大学教員連絡協議会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-23-13 田村ビル内

公益社団法人日本心理学会事務局内

TEL : 03-3814-3953 FAX : 03-3814-3954 メール : jpa@psych.or.jp